

【児童への話】

2月4日を過ぎ、いよいよ「立春」です。暦の上では、もう春です。世間では、山や川の氷が少しずつ解け始め、ウグイスの鳴き声が聞こえ、魚が泳ぐ様子が見られるようになってくると言われています。私たちも、自然と同じように、この時期にたくさん成長できるよう、自分から積極的に学習やお勉強に取り組んでみてください。

そこで今日は、「本気」についてお話しします。

皆さんは、学校の学習や生活のこと、自分の習い事や趣味のことなど、毎日することがありますね。人間には、生きている以上、しなければいけないことがたくさんあります。とってもしんどいことや、中には好きではなくて「いやだな」と思いながら渋々やっていることなど、いろいろあると思います。今日は校長先生から皆さんに、詩を紹介します。後藤 静香（ごとう せいこう）さんの創った、ステキな詩です。音読します。

「本気」 本気ですれば たいていなことは できる
本気ですれば なんでも おもしろい
本気でしていると だれかが 助けてくれる
人間を幸福にするために 本気ではたらいっているものは
みんな 幸福で みんな えらい

自分が毎日しなければならぬことを、「いやだな」とか「意味がない」とか、後ろ向きの考え方ですよりも、思い切って何でも本気で楽しむ気持ちでするほうが、自分にとってずっといいことがありますよ、という内容の詩です。

毎日のお勉強も遊びも、すべき時に本気でしないと、せつかくの時間がもったいないです。気が向かないことにも、楽しさを見付ける気持ちで本気で取り組むことで、皆さんの力は必ず伸びていきますし、すばらしい仲間が自然にできていきます。番町小の皆さんには、まず、自分自身のために何事にも真剣に取り組むこと、そして、力を高め合うステキな友だちをつくることを目指し、「本気で」頑張ることを望みます。今日は「本気」についてお話ししました。

【本講話について】

子どもから放課後等の話を聞くと、今の子どもは昔よりも格段に忙しいな、と強く感じる事が多くあります。物事に軽重を付けて力を入れる場面と抜く場面とを使い分けられることは確かに大切ですが、貴重な時間と労力を費やすのですから、どうせならば思いっきり真剣に取り組んだ方が楽しくて自分が得をすると思います。

何かに夢中になって取り組んだ経験は、長い人生の中で必ずその人を助けてくれる力になります。そして、一生懸命に頑張る姿が他者の共感を生み、協力者や後援者が現れることにつながるはずで、学習の要である「主体的に取り組む態度」の育成を目指して教育活動を続けていきます。ご家庭でもぜひ、親御さんが頑張ったことや、今につながる経験をお話してあげてください。